

## 平成30年度 第2回飛騨市総合政策審議会 議事録

【日時】 平成30年10月10日(水) 13時00分～15時45分

【場所】 飛騨市役所 西庁舎3階 大会議室

【出席委員】 全委員15名 出席委員12名

【執行部等】 都竹市長 湯之下副市長 沖畑教育長 東総務部長 柚原市民福祉部長  
大坪環境水道部長 青垣農林部長 泉原商工観光部長 青木基盤整備部長  
清水教育委員会事務局長 坂場消防長 佐藤病院管理室長 野村河合振興事務所長  
谷尻宮川振興事務所長 十松神岡振興事務所長 洞口財政課長(16名)

【事務局】 御手洗理事兼企画部長 柚原総合政策課長 土田係長(3名)

- 【会次第】
1. 開会
  2. 市長挨拶
  3. 会長挨拶
  4. 協議事項  
平成31年度の施政方針(案)について …… 別紙①
  5. その他  
今後のスケジュールについて …… 別紙②
  6. 閉会

### 【議事内容】

#### 1. 開会

司会【御手洗理事兼企画部長】

飛騨市総合政策審議会設置条例第6条の規定により、定足数に達しており審議会成立。

#### 2. 市長挨拶【都竹市長】

今年度第2回目の総合政策審議会。今回の審議会は、来年度の市の重点政策の柱立ての議論をいただくのがテーマ。現在、市役所では重点政策の協議を実施しており、その中に織り込ませていただく重要な回となる。

従来の予算編成のプロセスは、秋に予算要求を行い財政課が査定をし、副市長査定を経て12月終わりから市長査定を始めるというもの。どの自治体もほぼこういったやり方を取っている。飛騨市では、政策に関するものについては秋の段階でどういうことをやるのかを決めてから予算編成を行う。この手法は、市長就任の初年度から取り組み始め、昨年度から本格運用し、今年は3年目。夏以降色んな勉強をしながら協議を行っているが、このタイミングで皆様方からご提言をいただく機会を設けることは非常に意義がある。

平成31年度の予算は、私にとって最終年の予算。市民の皆様のご意見をお聞きしながらそれぞれの分野で様々な事業を展開してきたが、こういった事業は3年も実施していると、知らず知らずのうちに

市役所目線になりがち。生活者としての市民の立場にもう一回立ち返り、「市民の皆様が望んでいることを考える」ということに立脚して予算を検討している。

今日ご提案させていただくのは、今現在の柱立てだが、こういった考え方の中で予算編成に臨んでいるということをご理解いただきたい。闊達なご意見をお願いしたい。

### 3. 会長挨拶【高木会長】

私は、今年度度々飛騨市にお邪魔し、9月にも議会を傍聴する機会を得た。今は市の政策協議にもお邪魔し、どういった議論がなされているのかを私自身が勉強させていただいている。その中で、都竹市長は必ず、現場はどうなっているのか、市民の声は聞いてきているのかということをおっしゃっている。現場での困り感や、継続事業でも新たな課題を拾っているのかという議論がなされている。飛騨市が止まらず日々改善している要因ではないかと感じている。

この場も毎回のようには皆様の自由な意見をお聞きする場とし、ここでの意見は次年度の政策に反映していることを私自身も実感しているので、ぜひ現場の声をお届けいただきたい。

### 4. 協議事項

【市側より説明】平成31年度の施政方針（案）について《別紙①》

【委員】中小企業を対象にした寄り添い型の企業支援について、詳しくお教えいただきたい。

【市側】現在、よろず支援拠点を週1回実施しているが、もう少し継続した形での飛騨市独自のビジネスサポートセンター的なことができないかということを検討している。

【会長】これはf-Biz（エフビズ）の仕組みか。

【市側】飛騨市では、f-Bizモデルのような常駐のサポート体制は取れないが、よろず支援拠点よりも多くというように、その間を取った独自モデルをできないかということ。飛騨市に馴染みがある方をお招きし、2泊3日で月に数回できないか研究している。

【委員】ふるさと納税が全国的に話題になっているが、飛騨市の現状や対策に対する考えは。

【市側】飛騨市もふるさと納税は推進しており、昨年度は3億3千万円納税いただいた。入口となるサイトを増やすことが有効であることがわかり、6月と9月の補正予算でサイトを増やしたところ。また、今年度から楽天との連携の中で、社員お一人に飛騨市に出向していただき、ふるさと納税額の増をミッションとして取り組んでもらっている。もちろん返礼品の種類を増やす取り組みもあわせて行い、全国の皆さんに飛騨市を知っていただくとともに、産品を知って継続した購買につながるよう力を入れて取り組んでいる。

【市側】ふるさと納税は都市部の自治体では反対されている。飛騨市民が外にふるさと納税している額が非常に少なく、確か500～600万円だったため、黒字になっている。ノウハウを蓄積しながらやっているが、9月末時点で前年比105%と伸びている。返礼品の3割と事務手数料2割を引いても5割は残る。非常にありがたい。

【会長】3割は市内業者にお金が落ちているということであり、飛騨市全体にとってはよいこと。

【委員】防災について、各家庭での自主防災の強化はどのように考えているか。

【市側】行政の力だけでは限界があり、基本となるのは地域の力。全地域の見守りネットワーク

において説明とお願いに回っており、各家庭での備えや危険個所の把握、共助の重要性を周知しているところ。その中で、地域リーダーの育成が重要であることから、防災士を増やし組織化して、地域において力を発揮していただける仕組みを強化したい。

【委員】防災士会は、どのような位置づけで、どんな期待をされているのか。

【委員】防災士を区に一人ずつ配置するなど、市が防災士に対し準公務員のような身分を与えないと個人情報等難しいのでは。

【市側】防災士に期待する役割としては、啓発や地域防災計画の作成支援、避難所運営の支援をまずお願いしたい。また、避難訓練の内容の充実についてもお手伝いいただきたい。現在、51名の防災士が市内にみえる。今年飛騨市内で防災士養成講習会を計画中であり、倍の人数まで増やし、各地域2名ずつくらいは配置できるようにしたい。まずは増やすことと組織化から始めたい。

【会長】岐阜大学と岐阜県が連携し、清流の国ぎふ防災・減災センターを4年前に立ち上げ、地域の防災士を養成している。防災士は自治会の中で位置づけられないと活動しづらい。防災士の方々と一緒に考えていく仕組みが必要。県の災害検証委員会における今後の取り組みとして、各家庭が「どのタイミングでどのようにしたらよいか」ということを記載した避難者カードの作成をモデル的に実施し、県内に広げていきたいと思っている。こういった活動を防災士が中心となり、一人一人個別に見守る仕組みができるといい。ぜひ防災士に担っていただきたい。

【委員】防災士と消防団の関係性は。

【市側】消防団は消防本部と連携し、災害時の現場対応など直接市民の命を守る活動である。それに対し防災士は、避難所運営や日頃の防災の意識向上を図っていただくことを中心にしていればと考えている。いわゆる地域のリーダーである。

【委員】飛騨市ファンクラブのEdyカードで0.1%が飛騨市に入ってくると思うが、効果は。

【市側】手元に資料がなく正確な金額はお答えできないが、何千円程度だったと記憶している。使われる場面としてコンビニが多いことが理由だと考えるが、この事業は収益を上げることが目的ではないと認識している。

【委員】ファンクラブに入りたいが、名刺を配るのが面倒という意見がある。

【市側】会員に入っていただくと名刺を作り、それを市外のご友人等にお配りいただき、その方が飛騨市で名刺を提示されると、色んな店舗で特典を受けられるという仕組みになっている。

【委員】自分が儲けるために配るのは、心もとないという意見だった。

【市側】名刺をもらわれた方が市内で利用され、それが一定枚数貯まると配った方にもプレゼントを差し上げる仕組みになっているが、それを目当てに配ってみえるかたはおみえにならないと認識している。

【委員】滞在時間の延長と観光消費額のアップも大事だが、リピーターも大事。高山市では民間と市が組織を作り、観光客のアンケートを取ったと聞いたが、飛騨市でのそういった取り組みは。

- 【市側】今言われた取り組みは行っていないが、アンケートという意味では、一昨年、まちなか観光案内所等で、居住地や滞在時間のアンケートを実施した。
- 【委員】「君の名は。」の時の観光客が一過性になったと思う。
- 【市側】飛騨市は一過性で終わらずリピーターが多いというのが評価。アニメやドラマで数字を調査している自治体がほぼ無い中、飛騨市は数字を調査している数少ない自治体の一つ。8月には毎年3千人から4千人が「君の名は。」の聖地巡礼で訪れ、昨年度がDVDやブルーレイ発売直後のため一番多く、1万4千から5千だったと思う。今年の8月でも8千人を超えており、その中でもリピーターが多いのが特徴。ほとんどの自治体のほとんどの作品は賞味期限が1年である中、作品の性質もあるが長く続いている。また、引き留めるコンテンツとしての町の地力が評価されている。初めて訪れる方の数も減っておらず、組み紐体験等のコンテンツもあわせて続けていくことが我々の戦略である。
- 【委員】3点伺う。まずは災害時の長期間の停電対策について。次に飛騨市学園構想について現段階での具体的な内容を。最後に外国人技能実習生の奨励金制度についてももう少し詳しくお願いします。
- 【市側】停電対策については、今年度、河合・宮川地区の避難所に発電機の配備を進めているところ。災害時の市役所や振興事務所の本部機能の発電についても現在検討を進めている。
- 【市側】これまでも停電対策を行ってきて、これで十分だと認識していたが、ネット環境等も含め、再度点検し補強したいと考えている。
- 【市側】飛騨市学園構想についてお答えする。飛騨市内の保育園や小中学校、高校は、それぞれ規模や地域性が違っている。それぞれをつなぐことによって、高校を卒業する段階の子ども達の姿をみんなで共有認識し、予測不能といわれる社会を生き抜く逞しさや優しさ、自ら課題を解決していく能力を備えた子どもたちを育成していきたいと考えている。そのためには、これまで以上に連携を密にし、各段階での学習をつなげ、地域の実情を勉強し、実際の今の飛騨市の現状を学習することが重要。保小中高のつながりを理解した上でカリキュラムを作り、地域の皆様と一緒に地域をしっかりと考える子どもたちを育てたい。その為、まずは何をどうしていくのかという会議を持ちたい。
- 【市側】今、教育は大きく変わり、新学習指導要領ができ、知識中心の教育から課題解決能力をどうやってつけさせるかに変わってきている中で、それぞれの段階で一つの共通軸で出来ることがあるのではと考えている。
- 例えば、買い物する場所が無いという地域課題に対し、高校段階では解決の演習をする教育。中学段階では、そういう課題があり、それをどうやって解決しているかということをお教える教育。小学校では、買い物ができないということをお教える教育。保育園では、そもそも仕事とはどういうものかということをお教える。
- 保育園では仕事というものがわかり、小学校ではそれが世の中の課題解決に役立っているということがわかり、中学校では実際にやっている仕事の内容を理解し、高校ではそれを自分でシミュレーションして考えてみるということまでを、一貫通貫の教育カリキュラムでできるのではないかとイメージ。小さい市で県立高校も地域とつながり

が強いからできること。テレビ会議を使って複数校が同時に授業を受けるなどができる  
と、全体が一つの学校であると見立てることができ、これが「飛騨市学園構想」であり、  
部活の面でも応用できると考えている。

【市側】外国人技能実習生については、実習生同士のネットワークづくりのための交流会を開催  
したところ、それぞれが SNS 等を通じてかなり広範囲なネットワークをお持ちであるこ  
とがわかった。飛騨市では更に人手不足が深刻になっていくことは間違いなく、全国他  
の自治体よりも飛騨市は良かったと思ってもらい、定住には結びつかないが、次の方を  
呼び込むための呼び水になればと考え、奨励金を検討した。

【委員】学校環境を整えるという意味で、今年の酷暑時の対策を県立高校は順次進められると聞  
いているが、小中学校についてはどのように考えているか。

【市側】政府が今年の猛暑を受けて強力に進めると言われているが、直ぐに取り掛かれるように  
9 月補正でエアコン設置の設計予算を計上し、これから設計をするところ。工事費はざ  
っと 2 億から 3 億かかると思われ、市単独では難しいことから、国の支援を待って進め  
ていく。基本的には推進していく方針。来年には工事に入っていきだろうと考える。

【委員】外国人技能実習生について、介護現場でもたんぼぼ苑が動いてみえるが、言葉の壁があ  
る。日本語学校も含めた支援については。

【市側】日本語学校については、民間の方が検討されているという動きを聞いており、市からも  
何かお手伝いすることができればいいと思っている。

【委員】定住していただければ、次の方を呼ぶパイプが一つできるので、市民病院の医師誘致の  
ようにつながっていくといいと思う。

【市側】たんぼぼ苑から聞いたところによると、一人その事業所に母国の実習生がいると来やす  
いと言われたとのこと。市内の実習生のネットワーク作りなどを行い、安心して仕事に  
打ち込んでもらえるような環境づくりをすることが市のすべきことであると思っている。

【市側】たんぼぼ苑については、今年 2 回目のチャレンジをされた。去年は、施設に先輩外国人  
が就職されていないと行きづらいつわられオファーが無かったとのことだったため、今  
年はインドネシアで、市内電器屋にお勤めのインドネシアの方のビデオレターを持って  
面接に向かわれたら関心を示されたとのこと。健康面等でマッチングは出来なかったと  
聞いているが、このように一つの事業所だけでなく、地域で招き入れる取り組みを今後  
も継続したい。また、日本語教育付きの実習生の受け入れや、飛騨市に行くことのお得  
感を付けて、来年チャレンジしていただけるように考えている。なお、たんぼぼ苑につ  
いてはノウハウを地域の他事業所にも広めていただけるような役割も担っていただきた  
いと考えている。

- 【会 長】 会議を再開する。事務局から一つ追加で説明がある。
- 【市 側】 前回の会議時に委員から飛騨市就職総合情報誌アンケートの結果についてご意見をいただいた。集計がまとまったので報告させていただく。
- 【市側より説明】 飛騨市就職総合情報誌アンケート結果資料
- 【会 長】 委員の皆様からご意見を頂戴する。平成 31 年度に向けて市に取り組んでほしいことや現場の課題などご意見をいただきたい。
- 【委 員 A】 古川は観光化ズレしていない。この町の雰囲気が好きだという意見をよく聞く。このまま続けてもらいたい。
- 個人事だが、今年高山のケーブルTVに加入したところ、飛騨市のケーブルTVが見られるようになり市議会の様子も視聴も出来るようになった。市街地でも飛騨市ケーブルTVが見られるようになればいいと思う。
- 第 1 回目の会議でスポーツ施設について言及した。グラウンドの人工芝化を検討されているとのことだが、2 面取れる場所があるので、ぜひ有効的な使い方が出来るよう検討していただきたい。
- 【委 員 B】 災害対策については色々と市でも考えてみえるとのことだが、災害時の停電は新しい大きな問題ではないかと思う。医療の継続・確保という意味でご協力願いたい。
- 余談ではあるが、根尾選手への支援もできれば考えてみたらどうか。
- 【委 員 C】 福祉のお仕事ツアーが計画されており、飛騨市内施設の見学や介護体験をすることができるものだが、小中学校の子にも興味を持ってもらえたり、市内の他施設の職員同士の交流も生まれ、非常に素晴らしい取り組みだと思っている。その中で、介護士の移住について考えた時に、富山では移住フェアに介護分野のブースで出店するというをやっている。飛騨市でも移住フェアなどに出演したらどうか。また、ひとり親家庭の支援施策もあるが、介護職のひとり親の支援もあるとありがたい。介護職の高齢化が現場の悩みとしてある。
- 【委 員 D】 古川で生まれ育ったが、初めて市政に目を向ける機会を得ることができありがたい。
- 市内公園の東屋についてだが、掃除が大変でタバコの吸い殻も落ちている。今後の設置については、維持にあまり手がかからない設備の設置をご検討いただきたい。
- 【委 員 E】 昨今の被災状況をテレビで見ると、一定規模以上の災害が発生した時に、被害の未然防止や軽減が果たして出来るのか、不可能ではないかと痛切に感じている。
- 防災士会というのは新しい組織になる。自主防災組織、消防団という組織の中で、飛騨市から防災士を派遣するような場合には、既存組織とスムーズに連携ができるようバックアップをしていただきたい。
- 【委 員 F】 農業者に対する経営支援が無いのではないかと感じており、安心して就農できるようバックアップを検討していただきたい。
- ふるさと子ども大使について、今年度事業でのバスの移動中にアニメ映画を見せていたと聞いた。地元クイズや知識を教えるなどが出来たのではないかと感じている。保護者へのアンケートを取るなどして反省点を今後につなげていただきたい。

図書館について、ビジネス・金融・IT関係の雑誌が少ないと感じている。もう少しそういう雑誌を置いていただいて、その年代の方が図書館に来て勉強できるように拡充していただけるとよいと思う。

【委員 G】10年前から比べると、景観デザイン賞のエントリー数が少なくなっている。市民の街並みに対する意識が低下しているのではないか。街中では高齢化等により家屋の取り壊しが増えてきているが、観光客は第一に街並み家並みが素晴らしいと言われる。個人の自由であり市で抑止は出来ないと思うが、家屋の解体により駐車場を整備するにしても、景観に配慮した整備になるようことができないかと思っている。

また、高齢化により休耕地や空き家が増えている。市が保証人になって借り、貸し付いたり活用するようなことはできないか、積極的に取り組む価値はあるのではと思っている。

【委員 H】子育て支援の分野についてお話をさせていただく。まず、保育園の私立化は子どもにとっていい保育園づくりをしていっていただきたい。また、現状では臨時やパートの保育士が多くみえるが、資質向上の支援をお願いしたい。

飛騨市学園構想については、実現したら甲斐性のある子どもがたくさん育って非常によい取り組みだと感じた。

ロタウイルス予防接種の支援について、新たに始まった制度で若い世代には非常にありがたい制度だと思う。その中で、話題となっている風疹の検査について、夫婦になった時から支援を検討していただきたい。

母子手帳の電子版導入は、画期的ではあるがデメリットについても十分に注意して進めていただきたい。

成人の障がいをお持ちの方への支援について、就労支援が出来ていくと住みやすい飛騨市になると感じた。

7月28日のYCKプロジェクトで7名の高校生の方が絵本を読む取り組みの手伝いをしてくれた。アンケート結果を見たら、前向きな意見が非常に多く、今の高校生は凄いと感じた。

【委員 I】校舎整備については、河合小では市民プールが大きすぎることから小さくし、フェンスについても風よけになるようなものにならないかという意見があった。また、学校の窓に網戸が無く、蜂などが侵入してくることから網戸が欲しいという意見もあった。

学習環境については、真夏の登下校中は、暑さで子どもたちがフラフラしながら歩いているのをよく見かける。給水地が途中にあるとよい。あわせて、小中学生が教材をすべて持ち帰り、非常に重い鞆を毎日持って登下校し成長期の身体に負担がかかるという声も聞いている。また、昨今の子どもたちは勉強や部活で睡眠不足だとよく聞くことから、話題になっている昼寝制度を導入したらどうか。他校の導入事例があり勉強の成績があがったとの結果も出ている。あわせて、教師にも手に負えない児童がいると聞くと、各学校に優秀なカウンセラーを一人常駐させたらどうか。

地域活動においては、社会体育委員会や育成会やスポーツ少年団など多くの類似団体が

同じような活動をしていることがある。少子化が続き地域の負担になっている。統廃合も必要ではないか。古川は祭りの人足も負担になっている。

【委員 J】飛騨市小口融資ほかその他諸々の制度は高山市より手厚いと感じている。平成 21 年から始まった金融円滑化法により景気低迷時に元金返済を猶予し、一年ごとに見直し利息のみを支払う制度がある。状況が上向かない企業についてはそれぞれの金融機関で対応している企業がいくつもある。近年では景気が良くなり均等弁済できる企業が増えてきたが、長期の均等弁済に切り替える時に、大きな額の保証料が必要になる。返せなかった借金が返せるようになる企業に対し保証料の一部を支援できる制度があるとよいと思う。

【委員 K】市内企業紹介サイト「企業ステーション HIDA」を拝見した。市長と高校生の対談や、企業の先輩社員の働き方などが掲載されており、非常に親近感が沸いた。先ほどのアンケートの結果と合わせて思ったのは、ホームページに掲載されている情報がハローワークとほぼ同じような内容になっていた。目を引くような企業の魅力が伝わらないと思われる。もう少しイメージができるページだとよいと感じた。

飛騨市女性社会進出促進事業をやられていたと思うが、今年度の補助制度一覧の冊子に掲載されていないか。まだ事業は継続されているか。

【市 側】委員 A からの飛騨市の魅力は観光化されていないところだというご発言で、まったくおっしゃる通り。静かさを守りつつ、他方で見るところ、食べるころの少なさという課題はある。生活空間としての町を守っていくということが大事。

ケーブル TV については、今回の災害時にもケーブル TV を使った情報発信が課題となり、避難情報や生中継などが出来るように改善したところ。来年度もケーブル TV の充実をテーマに引き続き検討したい。

数河のグラウンドについては、市の敷地ではない部分については購入しなければならず、複数面は難しい。今年度策定予定のスポーツ施設の整備計画の中で優先順位を付け、順次整備していく。

委員 B の停電についてだが、今回の災害で停電に対する難しさを感じた。生活不安や業務の不安などいくつかテーマがあり、特に業務用については非常用電源整備の啓発の必要性を感じており、支援策の必要性についても検討したい。特に医療機関は透析等の問題も含めて死活問題。これから検討していきたい。

根尾選手については、大々的に応援したいが、高校野球連盟の制約があり個人を応援できないことになっている。プロに入られてから検討したい。

委員 C からいただいた意見で移住フェアに介護ブースが参加することは非常に大事であると考えている。参加できるようにしていきたい。

また、既に働いている介護職のひとり親の支援についても大事なところであるので検討していきたい。

介護職の高齢化問題については、市全体の課題。全体でなんとかしていくしかない。

委員 D のお話は、今後の整備の参考にさせていただきたい。みんなで丁寧に維持していきたい。

委員Eのご指摘については、実行部隊としての消防団、普段からの備えの啓発などを防災士といった役割の中でうまく連携していくよう研究していきたい。大規模災害については人命第一で動き、外からの力をどのように入れるのかという流れになると思われる。全国からの支援を上手にさばくことが大事。受け入れ体制の整備をテーマに掲げて検討を始めているところ。

委員Fの農業者に対する経営支援については、従来農協がその役割を果たしていたと思われるが、農協との関わりが薄くなっているのではと思われる。引き続き検討していきたい。

子ども大使の件は確認しておく。

図書館の雑誌の件は、雑誌総選挙という投票の形で決定している。そういった中で検討していきたい。

委員Gの街並みのお話は、私有財産は非常に難しいと感じている。やはり個人それぞれの意見があり、そこに市が下せる手がない。市で購入や賃貸をするにしても市民のコンセンサスをどう得るのかという問題もある。現在、空き家を改修し住居・店舗で貸す助成制度を設け、議会でも成功しているというご意見もいただいたところ。ここが一つの解だと思っている。流動性を高めることを重視している。

委員Hの保育士の資質向上については各保育園でも取り組みがあるが、私立に移行する園についても全体として話し合い漏れが無いか点検していく。

飛騨市学園構想の件では「甲斐性のある子」といういいキーワードをいただいた。

風疹ワクチンは、まず抗体検査の拡充を検討しているところ。

母子手帳の電子化については、従来の母子手帳を配布した上での導入の方向で検討している。

障がい者の就労支援は市がやる部分と民間がやる部分の支援を両方でやってきた。引き続き力を入れたい。

委員Iからは河合小のフェンスの件は、コスト的に見ても一番いい方法で検討したところ。市民プールについてはどこかのタイミングで必要性についても地元のご意見を聞いてみたい。下校中の対策についてもエアコンシェルターや店舗を活用するというのも一つのアイデアとしてお聞きした。

難しい児童生徒の対応については、発達支援センターを中心に全体のケアをしていく検討を進めている。

地域活動の統廃合についても、既に出てきており、特に古川町では区の統合も含めた議論が現実味を帯びていくつか議論され始めている。区長会等々でも議論をしていきたい。委員Jからの信用保証料補助の話は、できれば金融協会で見聞を取りまとめていただき、この秋には具体的にご提言を頂戴したい。

委員Kからのお話で、就職情報提供は砂を噛んだような情報にならないように取材等を行っているが、各企業でも考えてもらわなくてはならない問題ということもあり、自社の魅力発信のセミナーを5回シリーズでやっている。これは日本の中小企業全体の課題

かもしれないが、自社の情報発信ができていないという問題があり、十六総研の方からも特に飛驒が弱いとご指摘を受けている。

女性活躍の補助は継続している。

【市側】重い靴については、ニュースになり重要な課題だと認識している。出来るだけ置いていてもいいものは置いていかせているが、先般開催した校長会においても荷重になっていないか注視するよう指示したところ。

昼寝制度についてだが、寝不足については別の問題として捉えており、眠育の指導をしているところ。昼寝制度についてはメリットも検証されているが、全体のカリキュラムの時間の問題もあることから、個々の学校と検討してまいりたい。

【会長】皆さんだからこそご意見をいただいた。今後の政策の検討課題となっていくと思っている。このご意見がどういった形で反映されるか見ていていただきたい。私自身も何度か飛驒市に来る予定としており、アドバイスができるものがあればしていきたい。

以上で協議事項を終了とする。

#### ◎その他

今後のスケジュールについて《別紙2》

【事務局より説明】

#### ◎閉会【湯之下副市長】

全国の自治体で課題解決のため職員等々一生懸命考えて予算化に向け取り組んでいる。私ども含め本日出席している部長・局長・所長を中心に、市民の皆様に満足していただける、あるいは将来満足していただけるであろうということを心に秘め、本日いただいた貴重なご意見を参考に今後熟度を上げ、次回皆様にお示しできるよう取り組んでまいり。今後ともご協力をお願い申し上げ、第2回目の審議会を閉じる。